

## チキンボール

『チキンボール』

それは臆病玉。  
貧乏人の強い味方。

今これを読んでも、独房生活の衆人達へ、底辺からてっぺんを睨んでもイカしたイカれた目ん玉へ、坂の途中汗だくの酔くせえシャツへ、くそあち～夏に鳴いたヒグラシ達へ、毎晩の歯ぎしりで、俺は野良犬歯状態、絵に描けばギザギザ、ハートの子守唄、わかってくれとは言わないが、そんなに俺が悪いのか？いや、望んだんだよ、挑んでんだよ、なあ、うかね～顔、未来のチャンピオン達よ。

「俺は腹が減ってる、むちゃくちゃハングリーって事だぜ」  
って思いっきり開き直ろう。  
そんなヤツらにレクチャーするぜピーポー。

ピーポーピーポー運ばれる前に、飯食う金をまずは探そう。

いたる所を探したが、所持金は鈍く光る100円、熱い思いとは裏腹に、熱い缶コーヒー握りしめる事すらもできない時代だぜ、尾崎。

じゃ～どうする、泣いてチンピラ、ギャングスタ。  
銀行強盗、空き巣、窃盗、弁当泥棒でワッパブタ箱。

「へい、ポリスマン、俺は今塀の中だマン」

確かに朝昼晩、飯は食えるがくさい飯。

そこでスーパーで試食する事を選択しよう。

3周目まではギリギリセーフ。

「う～ん、これうまいなあ～、買おっかな～」  
とか適当にうまい事言いながら1周目のヤツらに紛れろ。

たまにガキが、  
「ママ～あの人、また食べてるよ～、ボクもまた食べたいよ～」  
とか、いきなり人様を指さし抜かず事があるが慌てるな。

慌てた方がかえって怪しく、万引き犯と間違えられ、Gメーン、それこそくさい飯。  
それでなくても3周目で怪しいのだから、その時は試食係のでっぷりしたおばはんに、

「いや～これうまいもんでついつい食べちゃいますな～焼いてるおばはんが焼き豚でハラミ・・・いや焼いてるお姉さんが綺麗だから更にまたうまく感じますな～、わっはっは、1個買う事に致しまひよ～ウキウキ♪ブヒブヒ」  
とかインチキ笑顔で適当に言って1つ手にとり、クソガキには思いっきりメンチをきって目で殺害しその場を立ち去ろう。

あとで手にとった商品は、その辺に放っておこう。

これがベテランに達すると4周目以降、髪を横分けにしたり、声色を使ったり、だて眼鏡をかけてみたりと、いろいろなバリエーションを楽しめるようになるという事を、あえて付け加えておこう。

さて、いろいろなスーパー試食を転々としたスーパー試食常習犯の行き着く先はどこだ？  
ベテランに達し、変装バリエーションを習得した事から、ヨネスケまでをも装い、『隣の晩御飯作戦』を執行しようと茶碗と箸を持つ手に力が入るかもしれないが、醤油貸借契約を交わしてるような素敵なド田舎でないと、これは危ない橋だ、やめておけ。

これまたくさい飯。  
出来る事なら、くさくない飯を喰らいたい。  
では、くさくない飯とは何か。

考えたが所詮はボンクラ、逆にくさい飯、臭いのきつい飯ばかりを考えてしまい、結局、『ドリアン』  
で渋々落ち着いたが、空腹は全く落ち着かない。

「どうなん？」  
類は友を呼び、似たような当たりのない貧乏くじ野郎にナムアミダブツ、ろくでもないがいちかばちか、門を叩き聞いてみた。

「ブラウン管に頼るんだよ、キューピーのあれ。何分クッキングだっけ、あれ」

「さ・・・、3！？阿呆になるぞ、このやろう！って言うか1か8か聞いてんだよ、こ、この阿呆！」  
俺達の位置は全然変わらず、腹の虫が鳴りやまない所か、この阿呆のせいでかえって虫の居所が悪い。

「畜生！！うりゃ～死にやがれ～！！」

とじゃれ合い半分で殴りかかるふりをしただけなのに、阿呆が殴られたふりで吹っ飛びやがり、ちやぶ台で頭をぶつけ、打ち所が悪く死んでしまった・・となれば、またまたくさい飯であり、阿呆と言えど友であり、阿呆ん事、阿呆事や、阿呆式で涙し、その後も阿呆を思いながら生きていく事を考えると、殴る所か殴るふりすらできない。

そんな事を考えている隣で阿呆は、1でもなければ8でも収まらんであろう何流大学かも知らん黄ばんだ大学ノートに、何やらニヤニヤしながら書いておられる。

チラッと盗み見ると、ミミズ文字を並べておる。

1. スシ
2. やき肉
3. うなぎ
4. すきやき
5. ハンバーグ
6. からあげ
7. さしみ
8. すし
9. カレー
10. デラミス

「おい、これ、何を書いてるんだ？」  
と問うと、

「喰いたいリストに決まってるだろ！阿呆！」  
と阿呆が阿呆呼ばわりしやがる。

最初にいちかばちか、この阿呆に聞いた俺がそもそも阿呆だったと情けなくなったので、さっさと雪駄を吐き、門を出る直前で、

「1も8も一緒やないか、阿呆！ほんで10のデラミスってなんや、阿呆！人生ミスばっかや、阿呆！」  
と罵り去った。

その後、6畳の独房で、

「実家に帰ろうか・・」

などと独り言の弱音を吐き、臆病になった時に、ある事を思い出した。

以前、この独房で仲間達を集め、押しくら饅頭状態になりながら寒さを凌ぎ、皆が食材を持ち寄ってやった鍋パーティーの事を。

そう言えば！

坊主頭の宴会番長が持ってきてくれたアレ。

冷凍庫を開けると、あった・・・チキンボール！

冷凍品なので長持ちし、めちゃくちゃ入ってる。

「た、助かった・・・」

臆病玉を喰らいつくせば力がみなぎってくる。

「やってやる、やってやる！」

『チキンボール』

それは臆病玉。

貧乏人の強い味方。

【『貧乏人の基礎知識 2005』より】

今も独房の冷凍庫にはチキンボールが常備されているのは言うまでもない・・・。

